

和歌山県の地震

第 2 8 卷 8 号
令和 2 年 8 月

和歌山県の地震活動

震央分布図	・・・・・・・・ 1
断面図	・・・・・・・・ 2
概況	・・・・・・・・ 2
和歌山県で震度 1 以上を観測した地震及び震度一覧	・・・・・・・・ 3
震度分布図	・・・・・・・・ 3

地震メモ No. 321

南海トラフ地震関連解説情報 (令和 2 年 9 月 7 日)	・・・・・・・・ 6
地震から身を守る	・・・・・・・・ 7

- * この資料に使われている震源要素 (北緯・東経) は、世界測地系に基づいています。
- * この資料の地震の震源要素は暫定値を使用しています。震度データを含めて再調査した後、修正することがあります。
- * 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点 (河原、熊野座)、米国大学間地震学研究連合 (IRIS) の観測点 (台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東) のデータを用いて作成しています。
- * この資料に掲載した地図は、国土地理院の数値地図 25000 (行政界・海岸線) を使用しています。

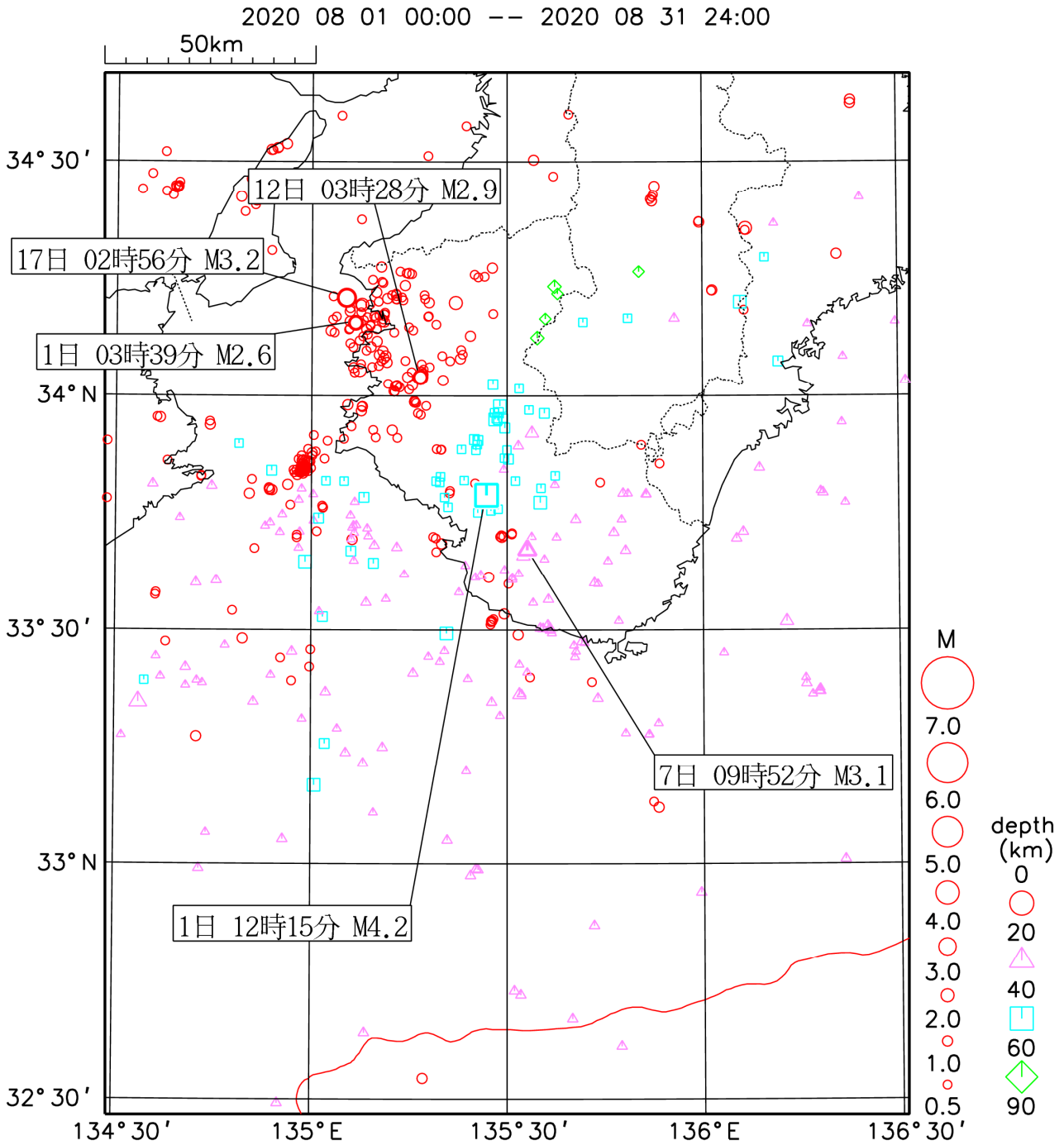
和歌山地方気象台

和歌山県の地震活動

2020年8月

和歌山地方気象台

震央分布図

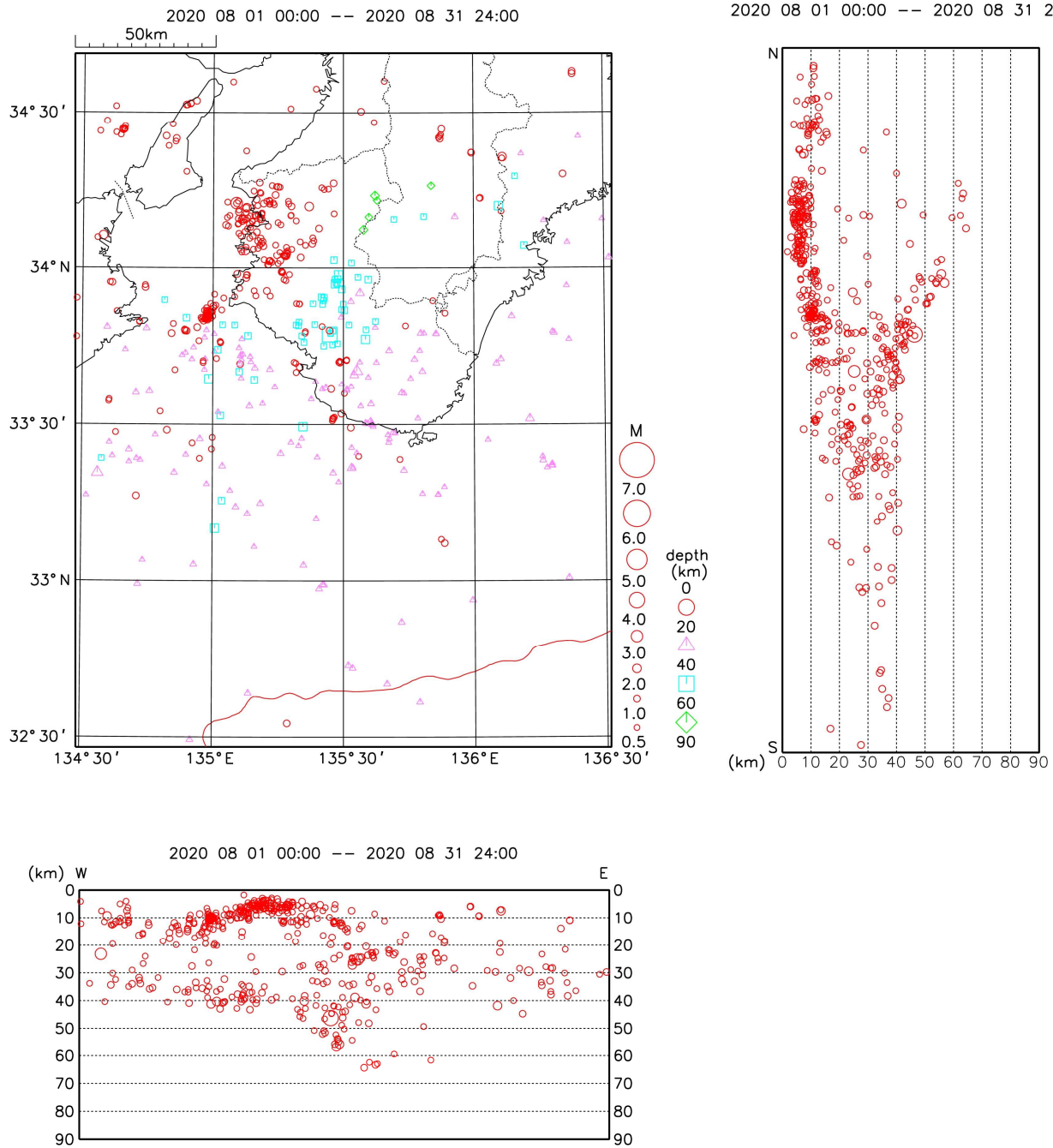


震央分布図は地震が発生した場所を地図上に描画したものです。

シンボルマークの大きさと地震の規模（マグニチュード）を、シンボルマークの形と色で震源の深さを表しています。また、赤線は海溝軸（南海トラフ）の位置です。

図中の吹き出しは、和歌山県内で震度1以上を観測した地震および震央分布図内で最も規模の大きな地震を示しています。

断面図



概況

8月の震央分布図内で震源決定した地震のうち、マグニチュード(M)2.0以上の地震は23回(前月は24回)でした。そのうち最も規模の大きかった地震は、01日12時15分和歌山県南部の地震(M4.2、深さ46km)でした。この地震はフィリピン海プレート内部で発生しました。

8月に和歌山県内で震度1以上を観測した地震は、5回(前月6回)でした。

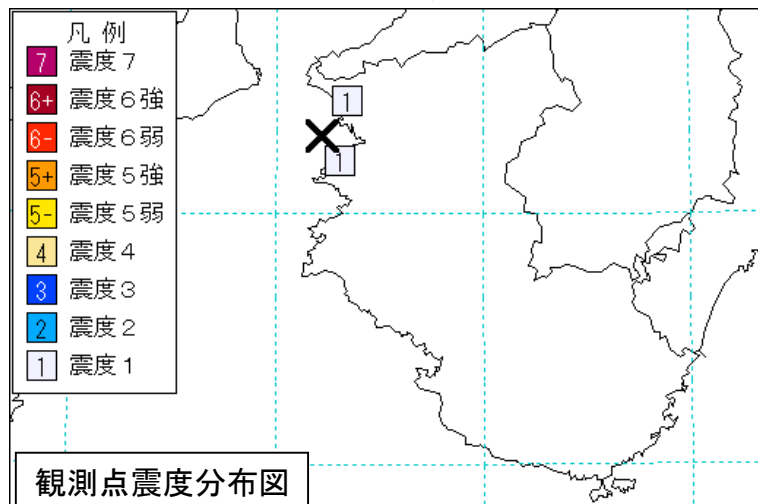
和歌山県で震度1以上を観測した地震及び震度一覧

発震時（年月日時分）	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード
2020年08月01日03時39分	紀伊水道	34° 09.3' N	135° 06.7' E	9km	M2.6
各地の震度（和歌山県内のみ掲載）					
和歌山県 震度 1：和歌山市一番丁*、海南市下津*					
2020年08月01日12時15分	和歌山県南部	33° 47.3' N	135° 26.8' E	46km	M4.2
和歌山県 震度 3：田辺市中辺路町近露、田辺市中辺路町栗栖川*、田辺市本宮町本宮* 田辺市中屋敷町*、白浜町日置*					
震度 2：御坊市藪、かつらぎ町丁ノ町*、かつらぎ町花園梁瀬*、高野町高野山中学校 湯浅町青木*、和歌山美浜町和田*、和歌山日高町高家*、由良町里* 和歌山印南町印南*、みなべ町土井、みなべ町芝*、日高川町土生* 紀の川市那賀総合センター*、紀美野町下佐々*、有田川町清水* 有田川町下津野*、田辺市鮎川*、田辺市龍神村西*、新宮市熊野川町日足* 白浜町消防本部、上富田町朝来*					
震度 1：和歌山市男野芝丁、和歌山市一番丁*、海南市下津*、橋本市東家* 橋本市高野口町名倉*、有田市箕島、有田市初島町*、高野町役場* 和歌山広川町広*、日高川町高津尾*、日高川町川原河*、紀の川市粉河 紀の川市貴志川町神戸*、紀の川市西大井*、紀の川市桃山町元* 紀美野町神野市場*、有田川町中井原*、新宮市新宮、新宮市磐盾* すさみ町周参見*、串本町串本*、串本町古座*、那智勝浦町朝日* 太地町太地暖海公園*、太地町役場*、古座川町高池、北山村大沼*					
2020年08月07日09時52分	和歌山県南部	33° 40.3' N	135° 33.0' E	25km	M3.1
和歌山県 震度 1：田辺市中辺路町栗栖川*、白浜町日置*					
2020年08月12日03時28分	和歌山県北部	34° 02.4' N	135° 16.6' E	5km	M2.9
和歌山県 震度 2：湯浅町青木*、有田川町下津野*					
震度 1：和歌山広川町広*、有田川町中井原*					
2020年08月17日02時56分	紀伊水道	34° 12.5' N	135° 05.3' E	9km	M3.2
和歌山県 震度 2：和歌山市男野芝丁、和歌山市一番丁*					
震度 1：海南市下津*、有田市初島町*					

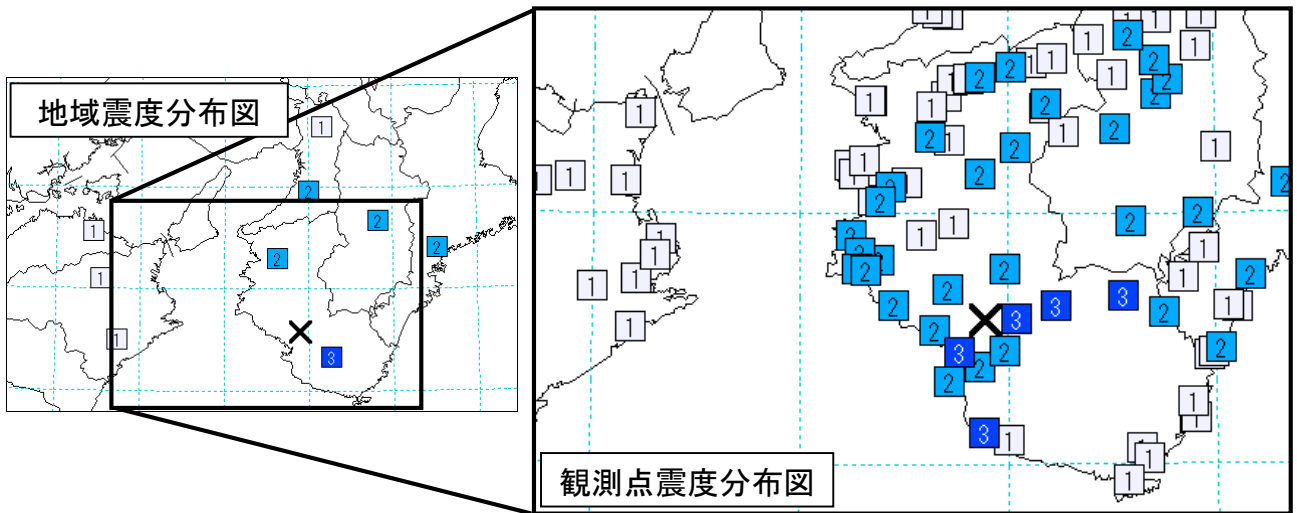
名の最後に*のついている地点は、和歌山県または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

震度分布図（図中の×は震央）

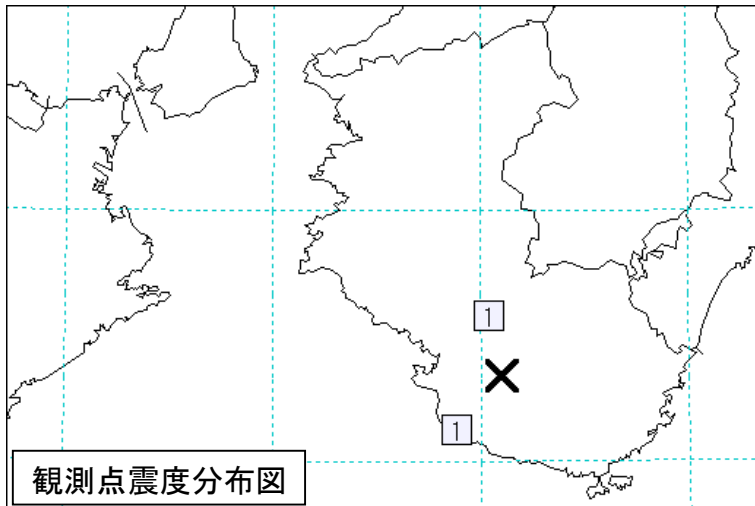
2020年08月01日03時39分 紀伊水道の地震(M2.6、深さ9km)



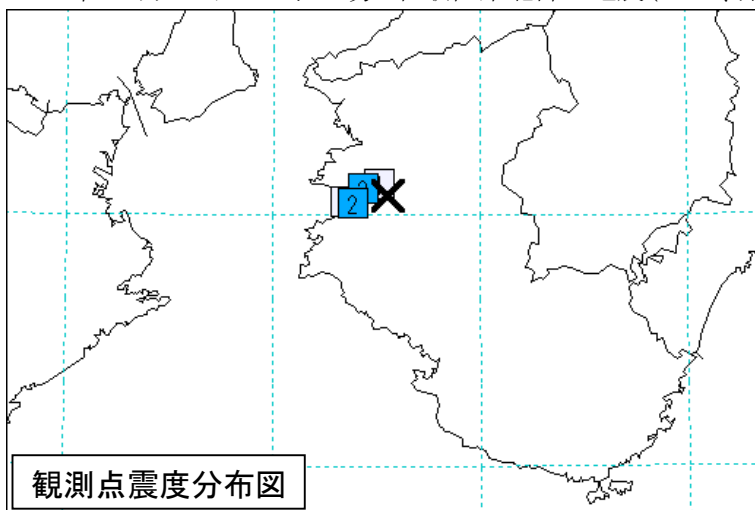
2020年08月01日12時15分 和歌山県南部の地震(M4.2、深さ46km)



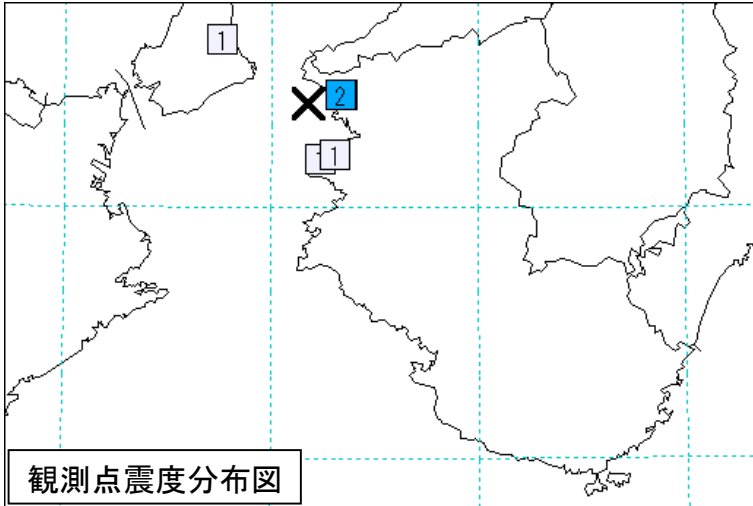
2020年08月07日09時52分 和歌山県南部の地震(M3.1、深さ25km)



2020年08月12日03時28分 和歌山県北部の地震(M2.9、深さ5km)



2020年08月17日02時56分 紀伊水道の地震(M3.2、深さ9km)



南海トラフ地震関連解説情報 (令和2年9月7日)

南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていません。

1. 地震の観測状況

(顕著な地震活動に関する現象)

南海トラフ周辺では、特に目立った地震活動はありませんでした。

(ゆっくりすべりに関係する現象)

プレート境界付近を震源とする深部低周波地震(微動)のうち、主なものは以下のとおりです。

- (1) 四国東部から四国西部：7月22日から8月23日
- (2) 東海：8月2日から8日
- (3) 紀伊半島中部から紀伊半島西部：8月23日から27日

2. 地殻変動の観測状況

(ゆっくりすべりに関係する現象)

上記(1)から(3)の深部低周波地震(微動)とほぼ同期して、周辺に設置されている複数のひずみ計でわずかな地殻変動を観測しました。周辺の傾斜データでも、わずかな変化が見られています。また、上記(1)の期間に同地域及びその周辺のGNSSのデータでも、わずかな地殻変動を観測しています。

GNSS観測によると、2019年春頃から四国中部でそれまでの傾向とは異なる地殻変動が観測されています。また、2019年中頃から志摩半島で観測されているそれまでの傾向とは異なるわずかな地殻変動は、最近では停滞しているように見えます。

(長期的な地殻変動)

GNSS観測等によると、御前崎、潮岬及び室戸岬のそれぞれの周辺では長期的な沈降傾向が継続しています。

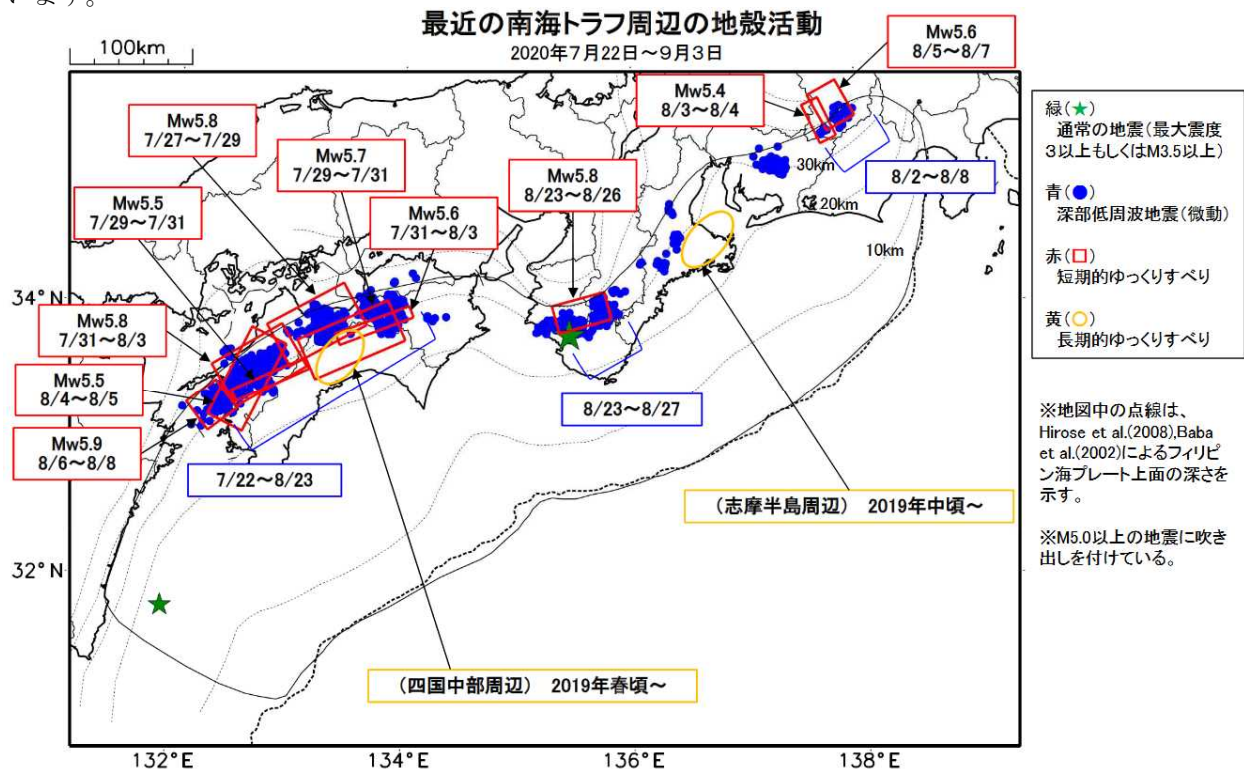


図 南海トラフ周辺の地殻活動をとまとめた図

この資料は、「南海トラフ地震関連情報」の普及を目的に、発表された『南海トラフ地震関連解説情報』の内容を抜粋、編集加工した概略を掲載しています。各観測状況の評価等、より詳細な事項は以下 URL の資料をご覧ください。

- ・ 南海トラフ地震関連解説情報 <https://www.data.jma.go.jp/svd/eew/data/nteq/index.html>
- ・ 報道発表資料 <https://www.jma.go.jp/jma/index.html> ※新着情報をご覧ください

地震から身を守る

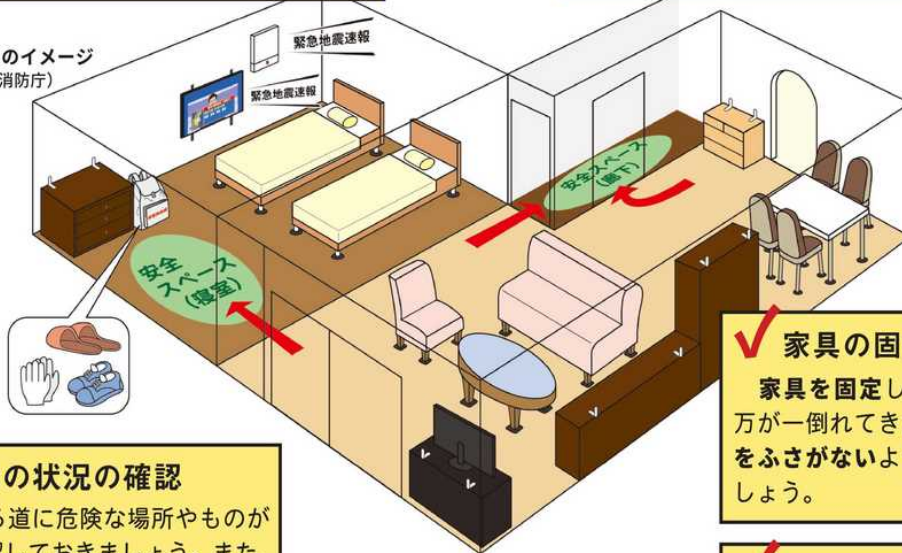
◎地震に備えておこう

地震の揺れは突然襲ってきます。いつ揺れに見舞われても身を守ることができるように、屋内・屋外問わず周囲の状況や避難経路を確認し、揺れに備えましょう。

✓ 備蓄・非常持ち出し品の準備
非常時の水・食料の備蓄や、非常用持ち出し品を準備しておきましょう。

✓ 安全スペースの確保
室内になるべくものを置かない「安全スペース」（ものが落ちてこない・倒れてこない・移動しない空間）を作っておきましょう。

室内の備えのイメージ
(資料：東京消防庁)



✓ 周囲の状況の確認
普段通る道に危険な場所やものがないか確認しておきましょう。また、地盤の弱い場所や地震によって地盤の緩んだ場所では、降雨などにより土砂災害が発生することがあります。前もって周囲の状況を確認しておきましょう。

✓ 連絡手段の確認
地震が発生したときの連絡手段や集合場所について、あらかじめ**家庭で話し合っ**ておきましょう。

✓ 家具の固定
家具を固定しましょう。また、万が一倒れてきた場合でも、**通路をふさが**ないような配置を考えましょう。

✓ 訓練に参加しよう
本当に地震が起こったときに、あわてずに身の安全を図ることができますか？**積極的に訓練**に参加しましょう。

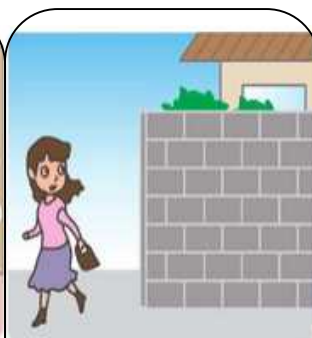
◎地震に気づいたら身の安全を確保しよう

緊急地震速報を見聞きしたり、地震の揺れを感じたら、あわてず、まず身の安全を確保しましょう。



家庭では、

- ・頭部を保護し、丈夫な机の下など安全な場所に避難
- ・あわてて外へとびださない、無理に火を消そうとしない



屋外(街)では、

- ・ブロック塀などの倒壊に注意
- ・看板や割れたガラスの落下に注意



エレベーターでは、最寄の階に停止させ、すぐに降りる



鉄道・バスでは、つり革・手すりにしっかりとつかまる

図の出典：気象庁HPより